

# アンタレスミニ

プレミアムポイント 先進性 独自性 社会性 性能品質 コスパ デザイン 施工性 将来性 使い勝手 生産性

## 通気・換気と防水を両立させた 笠木下換気部材の決定版

### 笠木周辺部で雨水浸入リスク

近年、住宅の外壁において通気工法が普及してきているが、ルーフバルコニーとパラペットにも通気層を設けることが多くなっている。この際に特に配慮が必要なのが笠木周辺部に設ける通気層。通気に重点を置きすぎると雨水浸入リスクが高まるが、防水に注力しすぎると上手く通気を確保できない。さらに、笠木周辺部は工程が入り組むため、適正な施工が難しい箇所であることが問題を複雑にしている。

### 施工法の工夫で高い防水性を確保

こうした課題の解決を目指し開発した笠木下換気部材がアンタレスミニ。手摺壁の横から釘打ちで固定する仕組みにしたことで、笠木天端の防水層の損傷を防ぎ、通気を確保しながら漏水・結露事故のリスクを低減。また通気・換気口の位置を工夫し、通気層に溜まる暖かい湿気を効果的に排出できるようにした。公的な試験所で実施した防水試験にも合格。

### 軒天見切りとしての使用も可能

アンタレスミニは軒天見切りとしても使用できる。一般的な軒天見切りでは防水性能に課題があるため、風の吹き方によっては漏水するリスクがあった。特に妻壁側では、屋根の勾配が大きくなると窯業系サイディング上の雨水の横走りにより、漏水しやすくなる。アンタレスミニを採用することで、漏水のリスクを軽減しながら通気の確保が可能になった。

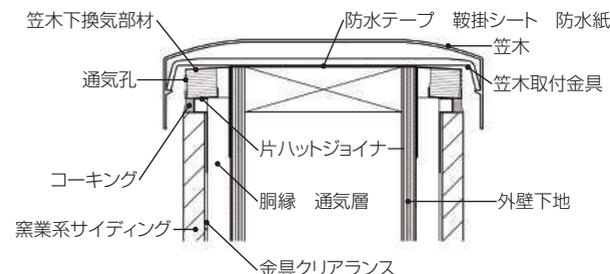
### 記者の目

ルーフバルコニーやパラペットは漏水リスクが高いところであり、対策を講じる必要がある。だが、これまでは、漏水対策を優先すれば換気が疎かになり、換気を優先すれば漏水対策が疎かになるという状況だった。アンタレスミニは独自の創意工夫により、どちらも両立させている。加えて、施工性が良く、グッドデザイン賞を受賞した美しい意匠に対する評価も高い。他を寄せ付けない笠木下換気部材の決定版と言えるだろう。



### 自社内外の試験でも高い性能を証明

笠木周辺部に4ℓの水を吹き付けながら風速35mの風を当て、外壁側とバルコニー側の通気層から入った水量を測るという自社試験を行った。様々な収まりの試験体で実験した結果、最も雨水浸入が少なかったのがアンタレスミニを採用した試験体であった。また、産業技術研究所の防水性能試験にも合格しており、第三者からも高い防水性があると証明されている。



### 他部材もセットで、さらなる防露対策が可能に

4種類の換気部材をセットで提案する「ハウゼコセット」を利用すれば、ルーフバルコニー手すり壁とパラペットのさらなる防露対策になる。腰壁換気部材の「アンタレスイベント」で手すり壁内部の熱気を通気胴ぶちへ排出し、笠木下換気部材の「アンタレスミニ」で通気胴ぶち内の熱気を外気へ放出する。また、通気入隅ハットの「インコーナーベンチレーションハット」で熱気が溜まりやすい入隅部の通気を確保。「ベテルギウスT」を施工すれば、小屋裏換気の防露対策になる。



笠木下換気部材「アンタレスミニ」



立平換気雨押え「ベテルギウスT」



通気入隅ハット「インコーナーベンチレーションハット」



腰壁換気部材「アンタレスイベント」